

公益社団法人日本ライフル射撃協会 2025 年度第 4 回理事会議事録

日時：2025 年 12 月 6 日（土）13:30～15:35

場所：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 3 階 会議室 8 及びオンライン会議（Zoom）

議長：橋本聖子会長

出席者

対面出席者（理事 17 名、監事 1 名）

橋本聖子会長、平眞副会長専務理事、田中僚一郎副会長、平井宏治常務理事、三木容子常務理事、高橋信吾常務理事、田口亜希常務理事、酒寄貴瀬常務理事、松島愛常務理事、武川正一理事、割田好則理事、尾崎和郎理事、仲本渚理事、五十嵐治人理事、北川和徳理事、小高左起子理事、山下敏和理事、平塚晶人監事

オンライン出席者（理事 5 名）

成山悟史常務理事、小川直人理事、吉岡大理事、穂苅美奈子理事、栗生由紀理事

欠席者（理事 4 名、監事 1 名）

横山幸子副会長、寺澤良悦理事、成瀬兼人理事、大木盛義理事、永谷喜一郎監事

出席総数

理事 22 名（理事総数 27 名中）、監事 1 名（監事総数 2 名中）、
そのほか佐橋朋木理事待遇、門間健一理事待遇、岡田亜美理事待遇、深澤佑樹理事待遇、事務局が出席。

日本ライフル射撃協会役職員コンプライアンス研修

理事会審議の前に、瓜生・糸賀法律事務所の早川吉尚弁護士と千賀福太郎弁護士により、理事の役割と責任をテーマとした役職員コンプライアンス研修を行った。

平眞副会長専務理事が 13 時 30 分に理事 23 名出席で理事会が成立するとの宣言をした。事務局が、オンライン会議システムにより、出席者の音声が即時に双方向に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認して議案の審議に入った。

会長挨拶要旨

橋本聖子会長は、理事会前のコンプライアンス研修への出席に感謝を述べた。自身は直前まで慶應義塾大学体育会射撃部創立 100 周年記念式典に出席しており、2 週間後には早稲田大学の 100 周年もあり、射撃の歴史を感じたと述べた。本日は審議事項・報告事項が多いため、忌憚のないご意見をいただきながらスムーズな進行に協力をお願いしたいと述べた。

審議事項

1. 総務委員会

1.1 協会将来構想の策定について

説明者：高橋信吾総務委員長

資料の有無：議題と同じ名称

説明内容：2024年度までの中期目標を見直し、2030年度を目標年度とする改定案である。10月にアンケートを実施し、理事・監事・理事待遇・参事からのフィードバックを反映した。主な改定内容は2点。第一に、7つの活動のあるべき姿について、活動7「組織運営の健全性」を新設した。第二に、中期目標について、総合・削除・新規作成を行い35項目に整理した。重点テーマはビーム射撃普及、競技人口30%拡大、ガバナンス強化である。

補足説明：平眞副会長専務理事より、目標年度を2030年度としたのは、これまでのオリンピック4年タームから5年タームに変更し、2026年度からの5年間計画として整備する方針であると説明があった。

訂正事項：選手強化委員会からの申出により、中期目標一覧の項目5を「JOC『アスナビ』への登録を毎年1人以上行う。」に訂正した。

審議結果：議長が理事会に諮り、訂正を反映した別紙1「7つの活動『あるべき姿』」、目標年度を2030年度とすること、訂正を反映した別紙2「中期目標一覧」の3点について、承認された。

1.2 ガバナンスコード遵守のための規程整備について

説明者：平眞副会長専務理事

資料の有無：議題と同じ名称

説明内容：

本年3月のガバナンスコード適合性審査の結果、4項目の要改善事項の通知を受けた。改善期限は12月26日である。

項目17（選手の権利保護）：肖像権の取扱いに関する規程、選手選考に関する不服申立て規程を新規制定。

項目35（懲罰制度）：倫理委員会規程第7条に処分通知の記載事項7項目を明記。

項目37（スポーツ仲裁）：スポーツ仲裁に関する規程を新規制定し、協会の決定全般を仲裁対象とすることを明確化。倫理委員会規程第8条も修正。

項目39（危機管理）：危機管理マニュアルを策定。顧問弁護士と相談し、スポーツ庁のモデルをベースに作成。

新規規程は本日付で施行、遡及適用はしない。事前に理事に連絡し、8名から特段の意見なしとの回答を得ている。

修正事項：倫理委員会規程第8条を日本スポーツ仲裁機構への自動応諾条項として修正した。

審議結果：議長が理事会に諮り、修正を反映した倫理委員会規程の改定、および肖像権規程・不服申立て規程・スポーツ仲裁規程・危機管理マニュアルの制定について、承認された。

1.3 国際役員ポスト獲得・維持活動の方針について

説明者：藤井彌国際部会長

資料の有無：議題と同じ名称

説明内容：国際役員活動の意義として、①射撃競技の存続（オリンピック・パラリンピック競技継続への影響力確保）、②情報の迅速な把握、③選手育成環境の確保、④国際協力の推進を説明。2026年ISSF、2027年ASC役員改選に向けた目標として、松丸喜一郎名誉会長はISSF理事・ASC副会長継続、藤井彌事務局長はISSF委員継続・ASC Rifle Sub Committee Chair昇格、栗生由紀理事はISSF委員継続・ASC Rifle Sub Committee委員当選を目指す。JOC IFポスト獲得支援事業を活用する。

質疑応答等：佐橋朋木理事待遇より、国際部会の活動方針として挙げられた国際協力推進活動の中で友好国拡大が挙げられているが、本件に関しては選手強化側でも推進している活動である。2024年以前より韓国・昌原市の射撃協会、2025年には韓国・仁川市の射撃協会と協力協定の締結を念頭に相互でチームを招聘し、協力関係を構築している段階である。書面等で形が残る協定締結について実現したいので、この場をお借りして国際部会の協力についてお願いしたいとの発言があった。藤井国際部会長より、国際部会としても選手強化の友好関係拡大に寄与したいと回答した。

審議結果：議長が理事会に諮り、選手強化委員会との連携による友好国拡大への協力を含め、国際役員ポスト獲得・維持活動の方針について、承認された。

2. 推薦委員会

2.1 適格証明制度の運用終了について

説明者：田中僚一郎副会長（推薦委員長）

資料の有無：議題と同じ名称

説明内容：適格証明は技能講習免除制度がスタートする以前に日ラが自主的に制定した制度である。現在、技能講習免除制度と二重に運用している状態。11月からシューターズによる推薦運用に移行したことで、適格証明制度は役割を終えた。技能講習免除推薦に一本化する。運用終了時期は警察庁と協議中であり、決定後に報告する。

質疑応答等：松丸名誉会長より、技能講習免除推薦を受けずに技能講習を受ける方への対応について質問があった。田中副会長より、会員である以上は技能講習免除を推奨し、会員を辞めた場合は推薦取消とする運用を進めていると回答した。

審議結果：議長が理事会に諮り、適格証明制度の運用終了について、承認された。

3. 国スポ委員会

3.1 青森国スポのKカードについて

説明者：平井宏治国スポ委員長

資料の有無：議題と同じ名称

説明内容：Kカードは前年度の国スポ成績により翌年度のブロック参加人数配分をプラスする制度である。来年の青森国スポのブロック人数配分を本年度の滋賀国スポの成績により配分した人数表について承認を求めた。

審議結果：議長が理事会に諮り、青森国スポのKカードについて、承認された。

4. 選手強化委員会

4.1 2025年度 国際大会・海外派遣選手選考要綱追加

説明者：佐橋朋木選手強化委員長

資料の有無：議題と同じ名称

説明内容：元々アジアンカップとして派遣を行わないとしていた、2026年2月にニュ

ーデリーで開催される大会がアジア選手権に格上げされたため、派遣を行う。予算の都合上、選手6名の派遣とする。また、ガバナンスコード対応として、選手選考の不服申立てについての条項を追加した。

審議結果：議長が理事会に諮り、2025年度選考要綱の追加について、承認された。

4.2 2026年度 アスリートパスウェイ要綱

説明者：佐橋朋木選手強化委員長

資料の有無：議題と同じ名称

説明内容：2026年度4月から選考会が入るため、通常2月の承認を前倒しで提出。内容は昨年度から大きな変更はなく、書きぶりの整理を行った。

質疑応答等：三木容子常務理事より、エリートアカデミー選手のNTC利用について、「卒業後2年間」ではなくISSFのジュニアカテゴリー期間に合わせるべきとの指摘があった。佐橋委員長より、ISSFのジュニアカテゴリー期間に修正することで合意した。

修正事項：エリートアカデミー選手のNTC個人練習認可期間を「卒業後2年間」から「ISSFジュニアカテゴリー期間中」に修正。

審議結果：議長が理事会に諮り、修正を反映した2026年度アスリートパスウェイ要綱について、承認された。

4.3 2026年度 国際大会・海外派遣選手選考要綱

説明者：佐橋朋木選手強化委員長

資料の有無：議題と同じ名称

説明内容：主な内容：①基準点はエアライフル男女のみ点数を若干引き上げ、②愛知県名古屋アジア競技大会はJOCから男子10名・女子10名の内定枠（クレール種目は別途5名）、③2026年11月からオリンピック出場権が出る年度となり、ワールドカップへの派遣を積極的に行う（協会派遣最大6名、自費派遣も6名）、④世界選手権は協会派遣最大20名、⑤オリンピック出場権獲得選手はロサンゼルスオリンピック出場選手となる（複数種目で出場権が重複した場合は国内選考会を実施）、⑥不服申立て条項を追加。

質疑応答等：深澤理事待遇より、アジア競技大会の男女別10名はクレール種目を含むかとの質問があり、ライフル・ピストル種目で10名、クレール種目は5名との回答があった。

審議結果：議長が理事会に諮り、2026年度選考要綱について、承認された。

5. 競技運営委員会

5.1 日本記録公認の件

説明者：三木容子競技運営委員長

資料の有無：議題と同じ名称

説明内容：資料記載のとおり、日本記録の公認を求めた。

審議結果：議長が理事会に諮り、日本記録の公認について、承認された。

5.2 公認審判承認の件（TD名簿更新）

説明者：三木容子競技運営委員長

資料の有無：議題と同じ名称

説明内容：TD名簿への10名の追加について承認を求めた。有効期限は2026年度末ま

で。

審議結果：議長が理事会に諮り、TD名簿の更新について、承認された。

5.3 ライフル射撃場の公認に関する規程改正案

説明者：三木容子委員長

資料の有無：議題と同じ名称

説明内容：計測にあたって従来は「JIS規格の計測器を使用」としていたが、レーザー距離計にはJIS規格の計測器が存在しないため、国際標準化機構規格（ISO）の計測器を使用できるよう規程を改定する。

審議結果：議長が理事会に諮り、射撃場公認規程の改正について、承認された。

5.4 2026年度競技会計画案

説明者：三木容子競技運営委員長

資料の有無：議題と同じ名称

説明内容：年間競技会計画案を提示。まだ調整中の大会もあるため参考として提出。G3・G4の試合は今後計画される。

補足説明：平眞副会長専務理事より、会議日程について、常務理事会は橋本会長および多くの常務理事に参加いただくため、日程・時間は直前に調整する旨の説明があった。

その他：平眞副会長専務理事より、参加資格と参加制限を混同してエントリーを受け付けているケースがあり、競技運営委員会に対し、2026年度の様式配布時に明確化して周知するよう依頼があった。

審議結果：議長が理事会に諮り、2026年度競技会計画案について、承認された。

6. 普及・生涯スポーツ委員会

6.1 JRSF認定B級コーチの認定について

説明者：成山悟史普及・生涯スポーツ委員長

資料の有無：議題と同じ名称

説明内容：定例の新規コーチ資格認定。今回はB級コーチ6名の新規申請について承認を求めた。

審議結果：議長が理事会に諮り、B級コーチの認定について、承認された。

7. マーケティング委員会 審議事項なし

8. コンプライアンス委員会

8.1 J-STAR事業に係る利益相反取引の承認の件

説明者：平眞副会長専務理事（コンプライアンス副委員長）

資料の有無：議題と同じ名称

説明内容：J-STAR事業（ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト）は日本スポーツ振興センターの委託事業として新たにスタートする。本事業の実施に伴い、指導者として業務に関わる理事に謝金が発生する。対象理事は三木容子常務理事。なお、田中副会長・成山常務理事については本年6月の臨時理事会で既に承認済み。利益相反管理規程第4条及び定款第33条に基づき、理事会に諮る。三木常務理事は議決権を行使できないため、三木常務理事を除く出席理事で審議を行う。

審議結果：議長が理事会に諮り、三木容子常務理事は採決に参加せず、出席理事22

名により、J-STAR 事業に係る三木容子常務理事の利益相反取引について、承認された。

9. アスリート委員会 審議事項なし

10. 愛知・名古屋アジア競技大会準備運営本部 審議事項なし

報告事項

12. 総務委員会

12.1 2025 年上半期決算書

説明者：高橋信吾総務委員長

資料の有無：議題と同じ名称

報告内容：当初予算は 1,348 万円の赤字だったが、補正予算では 1,126 万円の赤字を見込んでいる。上半期の実績はプラス 2,944 万円だが、これは年間の収入が上半期に集中するため。期末見込みは 968 万円の赤字で、補正予算より 157 万円改善の見込み。報告事項 3 点：①一般会計の黒字幅が縮小（従来 1,000 万円以上から約 100 万円へ）、②JSC 振興事業について 3 年間の基盤強化事業が終了し、一部事業は 5 分の 4 の補助率で継続しているため自己負担が増加、③2024 年度は壁崩落の補償など予定外収入があったが 2025 年度は通常収入に戻った。運転資金は現在約 1 億 4,000 万円だが、年度末には約 7,000 万円になる見込み。

補足：平眞副会長専務理事より、残り 3 ヶ月でできる範囲で節約し赤字幅を縮小したいとの発言があった。また、ENEOS 社会貢献事業として体験会支援で 480 万円の支援金をいただく予定であり、200 万円程度は残せる見込みとの報告があった。

13. 推薦委員会

13.1 審査結果

説明者：田中僚一郎副会長（推薦委員長）

資料の有無：議題と同じ名称

報告内容：9 月・10 月の審査結果は資料のとおり。エアピストルについては、所持許可待ちが若干数名程度に抑えられ、春の調整からスムーズに運用されている。

11 月の推薦委員会ではシューターズを使った推薦審査も順調に行われている。

14. 国スポ委員会

14.1 滋賀国スポ報告

説明者：平井宏治国スポ委員長

資料の有無：議題と同じ名称

報告内容：総合成績とアンケート結果を報告。滋賀国スポは前年度リハーサルで酷暑による問題があった点が大幅に改善され、おおむね良好との評価を得た。

14.2 青森国スポリハーサル大会報告

説明者：平井宏治国スポ委員長

資料の有無：議題と同じ名称

報告内容：久々の大会ということもあり、多くの問題点が挙げられた。おおむね良い

という意見もあるが、悪いという意見も多い。本番に向けて改善を図る。

15. 選手強化委員会

15.1 2026 年 1 月 H&N カップ派遣について

説明者：佐橋朋木選手強化委員長

資料の有無：議題と同じ名称

報告内容：11 月 24 日にホームページで要項を発表し、選考を完了。協会派遣 4 名、自費派遣 4 名の合計 8 名を派遣する。

15.2 世界選手権結果報告

説明者：佐橋朋木選手強化委員長

資料の有無：議題と同じ名称

報告内容：カイロで開催された世界選手権に 14 名＋自費選手を派遣。ライフルで入賞 2 名、ファイナリスト 2 名。10m エアライフル男子で花川選手が 4 位、50m ライフル女子で野畑選手が 8 位に入賞した。ライフルの入賞は 1990 年の柳田勝選手以来となる価値ある成績。団体成績も女子 5 位、男子 7 位と複数選手の強化が実りつつある。なお、2026 年 4 月から松田知幸コーチがナショナルチームコーチとして NTC に常駐し、ピストル指導を担当する。

16. 競技運営委員会

16.1 次世代機器プロジェクト進捗報告

説明者：田中僚一郎副会長（プロジェクトリーダー）

資料の有無：議題と同じ名称

報告内容：現在 2 社を候補として検討中。DISAG の RedDot システム（ドイツ製）と KSLS（韓国製）。両者とも RedDot という共通システムを使用している。ファインベルグバウやワルサー、パルディーニの銃に装置を取り付ける形式で、実際のエアライフル・エアピストルに近い。現行ビームライフルは 1 セット約 150 万円と高騰しているため、より安価なシステムで普及を図りたい。RedDot を使ったシステムを今後公認する方向で準備を進めている。

質疑応答等：松丸名誉会長より、国スポ・全日本選手権で使用する機器の移行時期についてアナウンスが必要との意見があった。田中副会長より、現時点では次世代機器の公認準備段階であり、国スポの種目としての検討は国スポ委員会等と連携して行うとの回答があった。藤井事務局長より、まずレッドドット技術を使った比較的廉価で高品質なシステムでの競技普及を進め、国スポ等の公認機器変更は別途検討すると整理した。

16.2 審判講習会・TD 講習会

説明者：三木容子競技運営委員長

資料の有無：議題と同じ名称

報告内容：本部公認審判員講習会を 2 月理事会の翌日に NTC セミナー室で対面開催する。参加できない方には Zoom 配信・アーカイブ配信を予定。TD 講習会も継続して対面で開催する。

17. 普及・生涯スポーツ委員会

17.1 スポーツ射撃教室実施状況及び ENEOS 協賛事業

説明者：栗生由紀普及事業部会長（オンライン）

資料の有無：議題と同じ名称

報告内容：2025 年後半に残り 5 回の射撃体験教室を予定。うち 3 回は ENEOS NF 支援事業として実施。①「みんなのスポーツ射撃体験」として 12 月と 2 月に特別支援学校・聾学校で開催。②「ビーム未来ステージ」として 3 月 8 日にオンラインとリアルを繋ぐエキシビジョン大会を開催。NTC を会場にビームライフル・ビームピストルの自由射撃 40 発で競い合う。体験会を経験した方々の継続的な参加機会を提供する。

18. マーケティング委員会

18.1 ふるさと納税に関する報告

説明者：松島愛マーケティング委員長

資料の有無：議題と同じ名称

報告内容：2025 年度は広報周知活動が不足し、現時点で昨年度までの寄附額の 3 分の 1 程度。日ラサイトからの申込期限は 12 月 11 日 23 時 59 分まで（加盟団体指定が可能）。新宿区サイトからのクレジットカード決済は 12 月 31 日まで（日ラへの支援のみ）。橋本会長やトップアスリートのメッセージ動画による SNS 発信を検討中。

補足：藤井事務局長より、申込後に納付書が届くため、納付を忘れずをお願いしたいとの注意喚起があった。

18.2 委員会委員の追加について

説明者：松島愛マーケティング委員長

資料の有無：口頭のみ

報告内容：北信越ブロック割田好則理事をマーケティング委員会に追加する。割田理事より、財政面での貢献に意欲を示す発言があった。

19 コンプライアンス委員会 報告事項なし

20 アスリート委員会 報告事項なし

21. 愛知・名古屋アジア競技大会準備運営本部

21.1 アジア競技大会・アジアパラ準備状況

説明者：田村恒彦スポーツマネージャー

資料の有無：画面共有

報告内容：

【大会概要】アジア競技大会は 2026 年 9 月 20 日～10 月 1 日、アジアパラ大会は 10 月 19 日～23 日。会場は愛知県総合射撃場（豊田市下山）。種目はアジア大会 28 種目、アジアパラ 13 種目。

【施設】10m・50m 射撃場の改修工事は今年度中に完了予定。ファイナル会場は新設で 2026 年 6 月末完成予定。エレベーターを新管理棟とライフル棟に 2 箇所設置。観客席はファイナル会場 259 席、ショットガン会場 275 席（仮設）。空調設備をファイナル会場とライフル会場に設置予定。

【宿泊】選手は三河安城駅前（会場まで 1 時間 25 分）、NT0・IT0 は豊田市駅前（1 時間 5 分）。TD から意見があり検討中。

【空港】セントレア空港を唯一の出入国空港とする。成田空港の追加対応を検討中。

出入国開始日は競技初日の 3 日前（9 月 17 日）。

【テストイベント】ライフル・ピストルは 2026 年 8 月 5 日～10 日に東アジアユースエアガン大会として実施予定。クレイ・パラ種目も同時期実施を協議中。電子標的・クレイ放出器は購入契約締結済み。

【課題】市街地から 1 時間以上かかる立地。敷地が狭く附帯設備の規模に制約がある。

質疑応答等：松島愛常務理事より、駐車場の規模と大会後の整備について質問があった。田村 SPM より、周辺に敷地がないため遠方の駐車場からシャトルバス運行を計画、大会後は仮設復旧で従来どおりとなる見込みと回答。尾崎和郎理事より補足があり、ファイナル会場建設地が元々 40 台分の駐車場だったが、クレイ射撃場側に同数の駐車場を新設したと説明があった。

補足：橋本聖子会長より、アジア・アジアパラ推進議員連盟会長として特別措置法案を議員立法で可決させたが、組織委員会の動きが悪く各競技団体との連携が取れていない状況があると説明。東京都職員の派遣や組織図再編を進めており、経験者を主軸に据える必要があると述べた。NF・SPM・TOM には苦勞をかけているが、時間がない中でできる限り東京大会のレベルに近づけたいとの発言があった。

22. 会務報告

22.1 デフリンピック射撃競技開催報告

説明者：藤井彌事務局長

資料の有無：議題と同じ名称

報告内容：2025 年 11 月 15 日～25 日、NTC 射撃場において 2025 東京デフリンピック射撃競技を開催。参加は 20 か国から 78 名（日本 5 名）、運営スタッフはドイツ人 2 名を含む 52 名体制。デフリンピック本部（東京都外郭団体と全日本聾唖連盟の共同設立）が組織委員会として運営。海外選手の銃器保管・用具検査・競技進行について警察当局および関係機関と連携し、大きなトラブルなく終了した。特に銃器の輸出入については各国デリゲーションと綿密な調整を行い、空港での受け渡しから大会期間中の保管・出国まで円滑に対応できた。この経験は来年の愛知・名古屋アジア競技大会の準備に直接活かせる。関係者の協力に感謝する。

22.2 OEG の開催予定状況の報告

説明者：平眞副会長専務理事

資料の有無：口頭のみ

報告内容：オリンピック e スポーツゲームス（OEG）は 2027 年サウジアラビア開催が発表されていたが、サウジアラビアと IOC の関係悪化により開催がなくなった（延期か中止かは不明）。日本 eshooting 協会が ISSF と準備を進めていた。ISSF は OEG に関係なく eshooting を推進する方針であり、来年度には日本国内で eshooting 大会を開催できるよう検討中。

補足：松丸名誉会長より、ISSF は OEG がなくても eshooting を推進し、射撃ファミリーを増やしたい考えであると説明があった。

以上各業務執行理事より職務執行の状況報告があった。

オンライン会議システムは終始異常なく、議事全部を終了したので、15 時 35 分に議長が閉会を宣言した。

上記議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、出席した代表理事および監事が記名押印する。

2025 年 12 月 6 日

議事録署名人

公益社団法人日本ライフル射撃協会

議長・代表理事 橋 本 聖 子

橋本聖子



代表理事 平 眞

平 眞



代表理事 田 中 僚 一 郎

田中僚一郎



監事 平 塚 晶 人

平塚晶人



以上

